



体験談 006

かろうじて回復した右目の視力で 一人で歩けるまでになったFさんは、 足壊疽による左ひざ下の切断をぎりぎりでもぬがれた。

PERSONAL DATA

Fさん

年齢	67歳
性別	男性
発症年齢	32歳
合併症	糖尿病網膜症 左眼失明 足壊疽

35年前、会社の健康診断がきっかけで2型糖尿病と診断されました。

それ以来、糖尿病専門医の先生にお世話になっています。

ある時期、一身上の都合で1年余り連絡をとらなかったことがあり、

久しぶりに主治医の診察を受けると、失明寸前の状態でした。

眼科のある近くの病院に約1カ月入院。

左目は失明（糖尿病網膜症）しましたが、右目は見えるようになり、1人で歩けるようになりました。

また、左足の人さし指の生爪を剥（は）がしてしまったことがあるのですが、

すぐに治るだろうと簡単な手当で済んでいたところ、

腿（もも）が腫れてきたので、近くの病院へ行きました。

「すぐ入院です」と言われ、1日4本の点滴をして、1週間後に手術を受けました。

手術の1週間後、「左脚のひざから下を切らないといけない」と言われ、

頭が真っ白になりました。主治医に相談した結果、

専門医の指導を受け、切断はまぬがれることができました。

【主治医のコメント】

車のセールスマンとして精力的に働くFさんが、会社の健診で糖尿病といわれ、診察室にきたのは1978年です。

83年、わたしの開業と同時に当院に通院するようになりましたが、

95年ごろに事業に失敗したとかで千葉へ引越しをされ、1年ぐらい音沙汰がなくなりました。

治療を中断している間に、糖尿病網膜症が進み、失明寸前の状態で来院されました。

治療中断の怖さを体験してからは、主治医を変えたくないと千葉県の自宅から小平の当院まで何年も通院を続けました。

しかし最近、HbA1cも7を超えることが多く、

足指の爪の外傷からひどい壊疽を併発しました。一度は左下肢の切断を勧められたようですが、

東京の大学病院で丁寧な指導をしていただき、切断はまぬがれたのです。



体験談 007

若くして発症のGさん。

4度目の入院のとき、合併症による壊疽で 左足の親指を切断した。

わたしが糖尿病になったのは、今から15年前のことでした。
当時体重は125kgでしたが、糖尿病の症状はなく活発に働いていました。
しかし仕事、日常生活のストレスが重なり、
昏睡（こんすい）状態となり救急車で運ばれ入院。
あとで血糖値が1,000mg/dl以上だったと知らされました。
結局インスリンを射つ結果になりましたが、
若かったせいか今まで4回入院してしまいました。
毎回栄養士の方や看護師の方々から糖尿病治療のご指導を受けてきましたが、
4度目の入院のとき、合併症が原因で左足の親指を切断するはめになりました。
今現在、体重は68kg。毎日朝夕食前に血糖値を測り、
月1回の通院日に担当の医師に診てもらおうようにしています。
どうして糖尿病になってしまったのか、
どうして4回も入院しているのに合併症にまで至ったのか、
もう一度反省して、もうこれ以上合併症が進行しないようにしたいです。
結局、自己管理が大事です。「さかえ^{*}」を読むことも
糖尿病の進行を防ぐための教訓として、愛読しています。

※P16 関連情報参照

PERSONAL DATA

Gさん

年齢 ——— 35歳

性別 ——— 男性

発症年齢 — 20歳

合併症 ——— 左足親指切断
壊疽^{エツ}